

■荒木村重 武將。摂津池田家に乗っ取って、織田信長の家臣となるも謀叛、単身亡命して一族惨殺も、最後は千利休高弟に。

あらきむらしげ

・ ・ ・ ・ ・ 1535 =

摂津国池田で、豪族池田長正の家臣荒木義村の嫡男に生まれる。幼名を十二郎、後に弥介(または弥助)。荒木氏は、藤原秀郷を祖とする波多野氏の傍流で、祖父の代に、池田家に仕官し、父が有力家臣になったばかりであった。

幼少期から、腕力が人一倍強かく、大食漢で、

鉄砲伝来・ ・ 1543 = 8歳 :
・ ・ ・ ・ ・ 1544 = 9歳 :

足利義輝將軍1546 = 11歳 : 父から食べ過ぎを注意されて反論、碁盤の上に父を乗せて悠々と歩き、父がその腕力に感嘆したという。

ザビエル来日 1549 = 14歳 :

川中島の戦始1553 = 18歳 :

長正の子でないにもかかわらず、文武に優れて、当主になった_摂津豪族の池田勝正の家臣として仕え、長正の娘を娶って、池田一族衆となり、長正の嫡男池田知正が勝正に反感を持っていたため、知正の有力家臣を酒宴に誘い、自らの手で肅清、家中にいた池田勝正の反対派を押さえ込むことに成功し、主君勝正からの絶大な信頼を獲得するが、

大村長崎開港1562 = 27歳 :

織田信長入京1568 = 33歳 : 猪名寺の戦を制して、池田家中屈指の発言力を獲得。その後、池田勝正が織田信長に臣従したのを機に、国盗りを計画、三好三人衆から来た謀反の誘いを利用し、_信長の家臣池田勝正を裏切って、知正と共に、三好家に寝返り、知正に勝正を追放させ、混乱に乗じ池田家を掌握、

石山合戦始・ 1570 = 35歳 : 池田勝正は、浅井長政の裏切りで、朝倉家との挟撃に会った信長が、退去した際、秀吉、明智光秀とともに、殿を務めて、信長から信頼されている。

比叡山焼討・ 1571 = 36歳 : 白井河原の戦いで、摂津国のライバルでやはり信長に臣従する和田惟政を討ち、勢力を拡大すると、織田家に移ることを画策、信長と敵対する足利義昭を支持する主君池田知正を追放、すなわち、*足利義昭を裏切って、信長に謁見すると、豪胆ぶりを示して気に入られ、家臣はもちろん、摂津国の支配も認められ、

室町幕府滅亡1573 = 38歳 : 茨木城主となり、信長が足利義昭を攻めて、室町幕府を滅亡へ導いた槇島城の戦いでまず戦功、池田知正は、やがて信長に降って村重の家臣となって、主君と完全に入れ替わり、まさに完璧な下克上。

長島一揆鎮圧1574 = 39歳 : 摂津国人である伊丹氏の支配する伊丹城を落として城主となり、摂津一国を任せられ、

長篠の戦・ ・ 1575 = 40歳 : 有馬郡の分郡守護赤松氏を継承する摂津有馬氏を滅ぼし、同郡を平定、細川政権・三好政権を通じての摂津統治の中心であった芥川山城・越水城の両城を廃して、_(伊丹城改め)有岡城を中心とした新たな支配体制を構築。以後も、信長に従い、越前一向一揆討伐、

安土城築城・ 1576 = 41歳 : 堺を代表する商人で茶人今井宗久を茶会に招いていた記録が残るなど、すでに茶人として名を成していた。_天王寺の戦いはじめ、一連の石山合戦、

安土楽市楽座1577 = 42歳 : 紀州征伐に至るまで、各地を転戦し、武功を挙げ、畿内のあらゆる戦線に顔を出す遊軍の立場で、織田家の重臣になっていた明智光秀と同等の役割を果たし、嫡男村次の正室に、光秀の娘を貰っている。この間、従五位下摂津守に任ぜられるが、おそらく、もともとが旧体制的で、革新的な信長から、次々と下される命について行けなくなり、足利義昭とも親しかったこともあって、精神的に耐えられなくなったのか、

上杉謙信没・ 1578 = 43歳 : 三木合戦では、羽柴秀吉軍に加わっていたが、*有岡城で突如、信長に対して反旗を翻す。信長は、当初懐柔策を打ち出し、明智光秀ら、糾問の使者に説得され翻意、釈明のため安土城に向かうも、家臣の中川清秀から信長の恐ろしさを聞いて、伊丹に戻り(中川清秀は、石山合戦の際、石山本願寺へ兵糧を横流したといい、その発覚も怖れていたらしい)。次いで、秀吉から派遣された使者、自分と旧知の仲の小寺官兵衛(のちの黒田孝高)を拘束し土牢に監禁、信長の怒りが爆発して、有岡城の戦となり、籠城して徹底抗戦するうち、側近の中川清秀と高山右近が、明智光秀に説得されて、信長方に寝返って窮地に陥いる。重臣らに裏切られるも、摂津国の領主たる気概を見せ、嫡男村次の正室は、その実家の明智家へ送り返し、高山右近の妹や子も危害を加えず解放、その主君小寺政職から殺害依頼があった小寺官兵衛も幽閉に留めている。

安土教会許可1579 = 44歳 : 単身で有岡城を脱出し、嫡男村次の居城尼崎城に移ってしまう。信長から、尼崎城と花隈城を明け渡せば、有岡城に残る妻子の命は助けると聞いた、かつての主君池田知正改め荒木久左衛門が説得に向かうも、拒否、ついに、信長が人質の処刑を命じ、有岡城の女房衆122人が鉄砲や長刀で殺され、京都に護送された村重一族と重臣の家族の36人が、大八車に縛り付けられ京都市中を引き回された後、六条河原で斬首された。浮世絵の祖といわれる岩佐又兵衛は、乳母の機転によって、生き延びた末子という。その後も信長は、避難していた荒木一族を発見次第皆殺しにしていくなど、徹底的に追及、

石山合戦終・ 1580 = 45歳 : 高野山金剛峯寺が村重の家臣をかくまい、探索にきた信長の家臣を殺害したため、全国にいた高野山の僧数百人を捕らえ、殺害したりしているが、村重本人は、_村次と共に、親戚の荒木元清がいる花隈城に移り、最後の抵抗拠点だった尼崎城と花隈城が落ちると、毛利氏を頼って海路で亡命、尾道に隠遁するうち、

本能寺の変・ 1582 = 47歳 : *本能寺の変で、信長が横死すると、堺に戻り、いきさつを知るかつての戦友で、覇権を握った豊臣秀吉もとに訪れるが、有岡城の戦いでキリシタンに恨みを持っていたため、小西行長や高山右近を讒訴したため、秀吉の勘気を受けて長く引見を許されず、さらに、秀吉が出陣中、村重が秀吉の悪口を言っていたことが北政所に露見したため、処刑を恐れて出家し、荒木道薫と号し、茶人として千利休らと親交、

賤ヶ岳の戦・ 1583 = 48歳 : 一度だけ、5歳になった末子又兵衛と会ったが、2人は、終始ほぼ無言だったと言う。_利休の高弟になるに至って、

秀吉太政大臣1586 = 51歳 : 堺で_没した。